

今回は、特別養護老人ホーム清風荘の前田光泰施設長にお話を伺いました。



清風荘  
前田光泰施設長

**インタビュー**  
今日は、お忙しいところ、ありがとうございます。清風荘様は、もう随分と長い歴史がありにされるのですが、施設の特徴というふうなものは、どのようなものがございますか。

**前田施設長**  
そんな言えるようなほどのことは無いのですが、あえて言うならば、困難なケースもほとんど受け入れる。ここは隣に今津病院もある。というふうなこともあって、比較的重度な人が結構使われています。多分、市内のほかの施設に比べても少し重度な方が多いかなと思います。だから、緊急のショートな人も拒むことなくほとんど全部受け入れるというふうな形になっています。これはもう私に相談することなく相談員の判断でやって

います。

**インタビュー**

なかなか空床のベッドの入れ替えとか大変なご苦労が相談員さんにはおありになると思っています。

**前田施設長**

地域の皆さんに対して多少は胸張って言えると思えば、その辺くらいかと思えます。

**インタビュー**

多少ではないと思えます。ゆたか会様は清湖園様も運営されておられて、障害福祉の方にも力を入れておられますし、連携したことがいくつもお出来になるといふうに以前から見せていただいております。隣に病院があると安心が利用者の方にもおありになると思っています。

**前田施設長**

今津病院は救急病院ではないのですけれども、夜間などの緊急の受診は診てもらっています。

**インタビュー**

そうですね、それがやはり一番の安心材料ですね。介護保険制度が出来て施設の運営も厳しくなってきましたが、そういった中でやってきて良かったなと思われた

こととか、やはりここは大変なないうふうなところは、どういったことでしょうか。



清風荘 全景

**前田施設長**

正直なところも清風荘に変わったのがほとんど介護保険が始まってからです。そういう意味でいうと、やはり認知症の方たちが本当に増えてきました。そして重度化してきています。旧措置の頃の清風荘の頃には、非常にユニークな、あるいは愛嬌のある利用者も結構おられました。平成十一年にこの建物に移転してきた当初はまだ何人かそういう方がいらっしやっ、ある意味施設長としても入居者と係わっていて、入居者との係わりそのものが非常に面白くて楽しいということがありま

したけれども、もうそういったユニークな入居者の方も皆さんお亡くなりになられて、今はもうとにかく重度な方の受け入れをどう進めていくかというところで、そのところが大変だと言えば大変なのですけれども、社会福祉施設として考えてみるとやはりそういった地域にあるニーズをきちんと捉えて我々がそれを受け止めて利用者のお世話をする、ケアをするということが、大変だけれどもこれはこれで遣り甲斐にもなるということだと思えます。

**インタビュー**

そういうお話をお聞きしますと、まだまだご苦労が出てきそうな感じがしますね。

**前田施設長**

施設長の後半のライフワークとして人材育成が私の仕事だと実は思っているのです。

**インタビュー**

後に続く人材の育成ということを考えますと、キャリアパスの構築というのを、言われていますね。

**前田施設長**

あのキャリアパス制度も実際に

きちんと動かせる制度を作るのは大変だと思います。ゆたか会様は実は今コンサルを入れて、時間をかけてもうちょっときちんとしたものを作ろうと思っています。



リハビリ室風景

**インタビュー**

それは素晴らしい取り組みだと思います。ホームページを見せていただきましたら、QC活動に積極的にとりこんでおられるんですね。ワーカーさんが、いくつものそういうQC活動のグループをお作りになって大変素晴らしいなと感心をさせていただいていました。そういう雰囲気というのは、どういう形で醸成をされたのですか。

**前田施設長**

清風荘では、平成十三年からQCサークル活動を始めました。当初は職員も余りわかっていません

でしたが、施設内で勉強会等を開いたりして少しずつそういう意識付けをやっている、少しずつものにはなってきたかなと思います。最近、一番熱心なのはホームヘルプのグループです。

**インタビュー**

意識付けをすることによって、自発的に活動をしようというグループが出来上がって来るといふことでしょうか。

**前田施設長**

やはり、ちょっとは辛抱強く毎月リーダー会議を開いたりとか継続するような仕掛けを色々やったりはしています。

**インタビュー**

人事考課をなさっておりますが、当初の人事考課からいついつよくな変遷があったというふうなことはございますか。

**前田施設長**

この人事考課は、平成十二年の春ぐらいから平成十四年のほぼ一年ぐらいかけてコンサルを入れて、当時の施設長クラスとコンサルとで継続して毎月一回会議を開いてゆたか会の理念の見直しや、我々はどういう職員を作りたいのか

等、かなり時間をかけて作り出した。そういう意味で言うと、ある程度のキャリアパスは、出来ているのではないかと思えます。

**インタビュー**

その他にも業務で力を入れておられる部分は、どのようなことがありでしょうか。

**前田施設長**

これからのこと言つと、やはり本来の社会福祉法人の使命というか、地域貢献に力を入れていかなければならないという思いはしています。



浴室風景

**インタビュー**

地域福祉という面について、やはりそれは措置の部分ではないかと思つのですが。地域貢献というのは大事なことであるとは思いますが、介護保険制度の下で一生涯懸

命生み出した利益をもって地域に貢献するということでしょうか。

**前田施設長**

これは、どれだけ出せるかにもよりますが、やはり本来福祉というものは、その地域にあるニーズを解決していくのが社会福祉の役割であると思えます。だから、地域にある問題に、やはり先駆的に、開拓的に取り組んでいかなければならないと思つています。法に乗らないような事柄でもいち早くそれを手がけて、場合によってはそれを法に結びつけるような形にしていくというのが本来の福祉の役割ではないかなと思つています。介護保険の特養という範囲からは少し外れるかも知れませんが、それに取



食堂風景

**インタビュー**

最後に目指しておられる介護とは、どのような介護でしょうか。

**前田施設長**

ありきたりですが、やはり利用者様一人ひとりを尊重したケアですね。それを全職員が本当に同じ思いでやっていくということは何とか実現していきたいなと思つています。本当の意味でのスキルアップですね。コミュニケーション

の中に何かないかということ、今、区長さんと今後定期的に会合を持ちませんかということやっております。それから、ゆたか会は以前から防災計画、防災訓練をきちんとしていきますので、それをゆたか会だけではなくて近隣の事業所も訓練と一緒に参加していただいて、合同で行っています。

**前田施設長**

今後の目標としては他にどのようなことがありでしょうか。

**インタビュー**

ゆたか会は理念として、この高島市の中で困っている人に手を差し伸べるということを謳っておりますので、ゆたか会の連携や組織力をアップしていくということだろつと思つています。1+1=3になるような組織力のアップをしたいと思つています。新しいことを経験することによって人は成長すると思つていますので、新しい経験をして、また新しい自分に出会うというふうな成長をしてもらいたいと思つています。

**インタビュー**

お話を通じて人材の育成ということに非常に力を入れておられるということがよくわかりました。本日は、長時間ありがとうございました。

